

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891400075		
法人名	医療法人社団 紀洋会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム篠山		
所在地	兵庫県篠山市西新町115-2		
自己評価作成日	平成27年10月13日	評価結果市町村受理日	2016年 2月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成27年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境で入居者の方が出来る事(家事やレクリエーション等)、したい事(外出や昔していたこと)ができるように取り組んでいます。すぐ隣が公民館であり地域サロンにも毎月参加しやすく、人の通りもあるのでフロアのカーテンを開けて手を振ったりと交流しやすいです。地域の方も毎月ホームでの行事(作業や幼稚園交流、ホームの大掃除等)に参加して頂いています。
ご家族との良好な関係が築けるように面会時には挨拶だけでなく入居者のご様子もお伝えするようにしご意見や想いを伺うようにしています。フロアは季節が感じられるような作品を掲示し、行事や日々の様子の写真も飾って楽しい思い出が呼び起こせるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所近くには城跡もあり観光客で賑わう所である。季節の行事には多くの地域住民の参加があり、隣の公民館活動には利用者も参加して、相互に交流が継続されている。観光客がトイレに立ち寄り触れ合う機会もあり、地域の中で普通の暮らしが実現できている。地域住民は交流の場を通じて、共に活動し出来ない所を助けることで利用者に多くの笑顔をもたらしている。今年度は利用者が役割をもって生活ができるように、子どもとの交流を模索しており、今後、大人から子どもまで地域全体に認知症への理解が深まることが期待される。在宅生活の推進役として、なくてはならない地域の居場所として事業所の柔軟、かつ多様なサービスが存分に発揮され、地域の活性化にもつながることを望みたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境を大切にしている。家事も入居者と共に行い家での生活に近づけるようにとケアしている。基本理念を事務所内に掲示し見れるようにしている。	理念を掲示しているが、その理念を意識づけしていくために日々話し合い、実践につなげるまでには至っていない。運営目標に沿って個人目標を作成するように指導し、職員の質の均一化を図ろうとしている。	職員会議やミーティング、申し送りなどを利用して、管理者と職員全員が理念を共有して実践につなげる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域サロンに参加。ホームの行事にも地域の方が毎月、作業やランチ会等で来所されている。	事業所の季節行事に住民が参加したり、利用者が公民館活動に参加して日常的に交流がある。「秋の味覚大作戦」では、地域の老人会、民生委員と共に、調理と食事を一緒に行った。年末には、地域住民が事業所の大掃除を手伝ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度地域サロンにてホームの職員による認知症の基礎や予防について話しする機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでのできごとを広報に沿って転倒などの事故も含め報告している。災害についてや行事について入居者が喜ばれるよう話し合っている。会に入居者が参加する事もあり交流が図れている。家族の参加は現在ないが呼びかけをしている。	自治会長、福祉委員、地域サロン会長、民生委員、地域包括の参加で、2か月に1回開催している。事業所からの報告と地域包括からの情報提供と意見交換が行われている。時に利用者も参加して上手に挨拶される。家族参加が得られるよう検討している。	引き続き議事録の送付と、認知症予防やリハビリなどのミニ講座を取り入れるなど、参加しやすい工夫をされてはいかか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括にも参加して頂いている。介護相談員を通じて入居者からの言葉も聞いている。	法人が窓口となり、市町村担当者と連携を図っている。事業所とは、今年度1回グループホーム連絡会が開催され情報交換の場となった。また地域包括から「篠山地域包括支援センター便り」が発行され、情報提供が行われている。	法人窓口だけでなく、事業所個々にやりとりすることで、より協力関係が強化されるのではないだろうか。ぜひ検討いただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度研修を実施。職員が講師をしてお互いに理解が深まるようにしている。毎月のミーティングや申し送りで気になる事がないか話し合っている。	身体拘束に関する外部研修を受け、事業所内で伝達講習を実施したり、日々ミーティングで話し合い職員の共通認識を図っている。転倒を繰り返す利用者については、安全を配慮して、ドアに鈴をつけたりセンサー付きワイヤレスチャイムを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度研修を実施。職員が講師をしてお互いに理解が深まるようにしている。毎月のミーティングや申し送りで気になる事がないか話し合っている。年に2回職員に個別で面談し話を聞くようにしている	年1回事業所内で勉強会を開き、お互いに理解を深めている。1フロアー人夜勤で、職員は「自分との闘い」であり気づきが重要と考え、虐待防止を職員間で共有し話し合っている。管理者は職員の疲労やストレスがケアに影響していないか常に気をつけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年にアドバイス頂き市から成年後見についてパンフレットを元に研修を行った。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、パンフレットを活用して学ぶ機会を持ち、理解を深めることができた。任意後見人を考えている利用者はいるが、制度の利用には至っていない。日常生活自立支援事業の利用者もいない。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ申し込み時に見学をして頂くようにしている。入居前に書類をもとに説明を実施している。	重要事項説明書に沿って、分かりやすく丁寧に説明を行っている。退所の条件やかかりつけ医などに質問が多い。事業所の対応可能な範囲や医療連携についても十分説明して、利用者及び家族の同意と納得が得られるよう努めている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者のご様子を伝えるようにしている。年に1度匿名アンケートを実施しご家族の率直な意見を伺うようにしている。介護相談員を受け入れている。	家族アンケート調査を実施して、現在回収中であるが、「相談できる日が決まっていればいい」と言う意見があった。また介護相談員の訪問があり、安全面を配慮したソファの位置のアドバイスを受け、改善につなげた。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度ミーティングを行いケアの確認や業務改善、提案を話し合っている。日々の申し送りでも気が付いたこと等小さなことでも話し合っている。	月に1回議題を決めて職員会議を開催している。業務改善については積極的な意見は出ないが、ケアに関しては活発な意見交換ができ、活かされている。管理者は、年2回個別面談で個人目標の評価を行い、課題や役割りなどを見出し職員の成長を引き出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性を生かし担当や仕事を任せている。職員の勤務状況や努力を上司に報告している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で力量に合わせた研修が受けられる。外部の研修もできるだけ参加できるように勤務を調整している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に同じ法人内のグループホームが集まり合同行事をしている。			

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特にホームでの生活に慣れ安心して生活できるよう周りの入居者と自然に関われるように調整をしたり側で寄り添うようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にもホームでの生活についてお話し不安が軽減できるように努めている。ご本人だけでなくご家族の気持ちも大切にできるような声をかけるようにしている。要望等は職員間で把握しいつでも相談してもらえるよう声掛けしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネージャーとも相談し適切なサービスに繋がるよう支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする先輩として入居者の方の意見も伺いながら共に家事を行っている。入居者の方に助けてもらう事、教えてもらうことが多々ある。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊は自由に行ける。ご本人の家の行事に参加されたりお正月、お盆は家で過ごされる方も居られる。お誕生日は一人ずつお祝いしご家族と過ごせるようにしている。年に1度家族会を行いご意見を伺っている。面会時はゆっくり過ごせるよう環境づくりを大切にしている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にはこれまで使われていた馴染みの家具を持参していただき安心できる自分の部屋を作ってもらっている。面会時間も決まっておらず兄妹や家族、友人の訪問を喜ばれている。自宅方面へドライブに行ったり馴染みの場所の話が喜ばれている。	近隣の知人や友人の面会もある。家族の協力で自宅に帰ったり、地元の秋祭りに参加される利用者もいる。自宅方面へドライブしたり、好物のおまんじゅうを買いに行くなど支援している。家族アンケートからも、ほぼ全員がよく出かけているという評価だった。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同時の間でトラブルが発生しそうな際は早めに職員が間に入るようにしているが他の入居者がうまく仲裁に入られる時もある。食事の席を配慮する事もある。皆でお話できるような環境ができるように心がけている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院先や他施設への面会を実施している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時はゆったりと個別で話せる場でありご本人のこれまでの生活の話を伺ったり、日々の会話の中からご本人が興味を持たれている事をケアへ取り入れるようにしている。	日常の会話、表情、言動から思いや意向を把握し、申し送りや療養記録で「様子」の項目に記入して、情報を共有している。利用者に対する家族の思いや要望を訪問時や電話で聞き、プランに反映させている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りとご家族からの聞き取りを実施している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で気付いたことや感じた事等の情報を毎日の申し送りの際や毎月のミーティングで話あい現状の把握に努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の際は家族と共にカンファレンスを行いご本人の状態を共有しご希望を伺っている。モニタリングを行い毎月のミーティングで話し合い必要に応じて項目追加をしている。	介護計画は家族も参加して作成している。計画はチェック表に連動しており、日々のケアで実施出来ている。今年度はモニタリングに力を入れ、月1回見直しを行った。長期目標、短期目標も2年の期間となっており、見直し後のプラン作成にまでは至っていない。	毎月のモニタリング結果を短期目標3か月～6か月で見直しされてはいかがか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきは療養記録に記載し全職員が目を通すようにしている。申し送りや毎月のミーティングで情報共有をしケアへつなげている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人からの希望はできるだけ早く対応できるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が出演される歌の会や小学校の運動会に参加している。地域サロンへは毎月参加しサロンと合同で行事にも取り組んでいる。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があり日々の様子を伝えている。医師からの話は面会時にご家族にご本人の様子と共に話している。必要に応じて医師と家族が話す場を作っている。	利用者、家族納得のもと、協力医療機関の往診を月2回利用している。協力医療機関内の歯科往診及び他科受診は職員の付き添いとしている。利用者の状態変化等があった場合は、随時家族に報告し、必要時には、主治医から直接家族に説明するなど、相談もしている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回看護師訪問があり日々の様子や職員が心配している事を相談している。24時間365日電話で連絡が取れる体制となっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はこまめに顔を見に行くようにしており家族や医療関係者との関係作りを行っている。	利用者の日々の食事や水分量のチェックをするなど体調管理に努め、状態変化があった場合は速やかに看護師に相談、受診している。入院時は職員が見舞い、声かけと状態確認をしている。事業所は、利用者、家族の意向により早期退院に向け、安心できる生活環境やリハビリなどの受け入れ体制も用意している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取り事例がありませんが以前に看取りを行った際はご本人、家族のご希望を大切にし医療と相談しながらチームで取り組んでいた。	契約時に、重度化及び看取りについての指針を説明し、その時点での意向確認を行っている。入院等の状態低下があった場合は、その都度相談するようにしている。現在、複数の希望を受けているが、利用者、家族の意向を最優先に、安心できる環境、そのための職員の資質向上に努めている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順書がありどの職員でも対応できるようにしている。消防訓練時に消防士から心肺蘇生、応急手当、担送法を学ぶ機会を設けている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署員と共に消防訓練を実施。運営推進会議で災害時について話あい避難場所の確認や市の防災訓練に参加できないか地域に声かけを行っている。	9月に消防署立ち合いの避難訓練を利用者共に実施した。運営推進会議を通じて、毎年地元小学校で開催される防災訓練参加の要請を受け、職員が参加予定である。近隣の河川の氾濫が想定されることから、次回来年3月の訓練は、消防署立ち合いによる地震、水害想定での防災訓練を予定している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄時、入浴時は注意している。個々に合わせた声かけや対応を行うようにしている。居室で過ごされる時間も大切にしている。	入浴は、利用者が一人でほっとできる大切な時間と捉え、職員は最小限の見守りに努めている。排泄時は、声かけの際の声の大きさに注意し、交換時は周囲にも気を配るようにしている。利用者の生活歴や性格等を十分理解するよう心がけている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの場面においても自己決定しやすい声かけを心がけている。ご本人の意思を大切にしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休まれたり、外出希望等ご本人の希望にできるだけ添えるよう対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで散髪をしている。髪染めは地域の美容室にお連れしている。ご家族と行きつけの美容室に行かれたりする方も居られる。外出時は化粧やよそいきの洋服に着替え外出がより楽しめるようにしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット、おかずの盛り付けや台ふき、お茶入れ等食事に向けて一緒に準備をしている。	職員が利用者の好み、旬の食材やいただき物からメニューを考え、3~4日に一度買物に行っている。朝はヨーグルト、お肉や野菜は食べやすい大きさに切るなど、調理法や味付けも工夫している。行事食やおはぎ等のおやつを利用者も一緒に手作りしている。誕生日にはお赤飯を用意するなど、特別感を大事にしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事や飲み物を提供している。飲み物は数種類用意し美味しく水分補給できるようにしている。カロリーカットの砂糖も個々の状態に合わせて利用している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には重層水でのうがいと舌ブラシを使用しケアしている。月1度口腔外科医、月4回歯科衛生士による口腔ケアを実施している		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々の排泄リズムを把握するようにし、重度になってもトイレでの排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本としている。日中及び夜間とも、居室でポータブルトイレを使用している人もいる。職員は排泄リズムを把握し、時間をみて早めに声かけしたり、様子から察しさりげなく誘導している。利用者の状態低下が見られた場合も、できるだけ残存能力の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト提供、できるだけ自然に排泄できるよう腹部マッサージや運動を促している。それでもでなければ下剤を利用し3日に1度は排便出来るようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しての希望を取り入れるようにしている。入居者が気持ちよく安全に入浴できるように声かけや浴槽内の椅子を使用している。冬場は脱衣所と浴室の温度に注意している。	概ね、週2回午前、午後の入浴としている。利用者からの希望で入ってもらったり、こちらからも声かけするが、無理強いはない。職員はさりげなく見守り、利用者一人ひとりのペースを大事にしている。季節風呂や職員とのおしゃべりも楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて早めに休んでもらっている。家で使用されていた布団を持ち込んでもらったり気持ちよく休めるよう室温にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変化があった時は特にご本人の様子に注意し気が付いたことは看護師に報告するようにしている。処方箋は事務所にファイリングしてありどの職員でも目が通せるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの水やり、めだかの餌やり、作業や家事を個々の力にあわせて職員と共に行っている。おまんじゅうを食べに行ったり美容室に髪染めに行ったりと生活に楽しみがもてるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と馴染みの美容室に行ったり、地域の方とお花見をしたり、家族と地元のお祭に参加されたりしている。お盆やお正月は家に帰られる方もいる。	地元の行事や毎月開催される隣接の公民館サロンに参加したり、付近の城下跡を散策するなどしている。家族来訪時に一緒に外出したり、知人に会いに行ったり、盆や正月には自宅に帰省している。食べたい物を職員と一緒に買いにいくこともある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を伺い事務所で預かっているお小遣いを使用している。お小遣い帳をつけレシートも保管している。2ヶ月に1度家族にお小遣い帳のコピーを送り使用方法に問題がないか確認をおこなっている		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	孫の出産を祝うお手紙を書かれたり、家族へ電話したいと希望され電話を掛けられる事も何度かあった。ご家族を心配されている際はお手紙を書かれないか声かけを行う事もある。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を一緒に作成したり、行事や日々の様子を写真に撮り飾るようにし楽しい事を思い返せるようにしている。座り心地のよいソファも置きリラックスできるようにしている。	リビングには、複数の食卓テーブルが配置され、利用者の状況により柔軟に移動している。周りには、横になれるソファが置かれ、利用者が昼寝をしたり、個々に過ごしている。本棚に本やレクリエーションの道具が、利用者が好きな時に取れるよう置かれている。中庭はデッキになっており、春にはソファを置きくつろぐことができる。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファだと相手との距離も近づくので身体を擦ったり入居者同士の会話も弾んでいる。全室個室であり1人になりたい時はお部屋で過ごされる事もある。入居者同士お部屋でお話しされる事もある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、カーテン以外は慣れ親しんだ物を持ち込んでもらうようにしている。家族の写真や手紙を飾ったりされている。安全にも配慮し本人と家族と相談しながら家具を配置している。	衣類をしまう整理箆笥や収納庫、ハンガーが置かれている。好みの本や雑誌、ラジオなど大事にしていた物や趣味の小物が飾られている。仏壇を置いている人もいる。職員が、誕生日の写真や手作り品を飾るなど、その人らしい部屋となるよう心がけている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように貼り紙をしたり、電気のスイッチがご自身で操作できるように紐を調整したり汚れ物を入れるバケツやビニール袋を設置している。		